

第 25 回 青梅市公共交通協議会

基本計画推進状況について

1. 市広報紙による公共交通の利用促進について
2. 観光におけるMMIについて
3. 学校におけるMMIについて
4. 公共交通ガイドの更新について
5. 河辺下地区について
6. その他

平成30年3月29日

1. 市広報紙による公共交通の利用促進について

バス停	時刻	立川駅北口からの運賃
立川駅北口	1:20	-
拜島駅南口	1:40	740円
熊川駅	1:44	820円
牛浜駅入口	1:46	880円
福生市役所	1:47	960円
福生駅西口	1:51	
福生消防署	1:52	1,080円
神明台1丁目	1:56	
羽村駅東口	1:59	1,120円
羽村市役所	2:01	1,180円
小作駅東口	2:05	1,280円
河辺町7丁目	2:08	1,380円
河辺駅北口	2:17	

年末の深夜バスが増便されます

公共交通機関を利用しましょう！

西東京バスでは、次の日程に限り深夜時間帯のバスを増便します。

日程 12月15日(金)、22日(金)

対象路線(名称) 立川〜河辺線(楽帰い！)

時刻表・運賃 左表参照

西東京バス 青梅営業所 ☎32・0621、まちづくり推進課

お問い合わせ 西東京バス

その他 通常の深夜バス等も引き続き運行していますのでご利用ください。

「広報おうめ」平成29年12月15日号(43,100部印刷発行)

公共交通機関 春のダイヤ改正

～乗って守ろう！
使って育てよう！
公共交通～



市内を運行する公共交通機関には、ダイヤ改正を予定している事業者があります。ご利用の際は、あらかじめ各事業者のホームページ、各駅やバス停の標示などをご確認ください。

通勤、通学や買い物などのお出かけには、電車やバス等の公共交通機関をご利用ください。

問い合わせ まちづくり推進課

「広報おうめ」平成30年3月15日号(43,100部印刷発行)

バス路線の廃止について

西東京バス株式会社が運行している「河辺駅南口～市民斎場」路線は利用者が少ないことから、平成30年3月31日をもって廃止となります。

ご不便をおかけしますが、ご理解をお願いします。

問い合わせ 西東京バス株式会社 ☎042・646・9041、市まちづくり推進課



「広報おうめ」平成30年3月15日号(43,100部印刷発行)

10年後に公共交通を残せるか!?

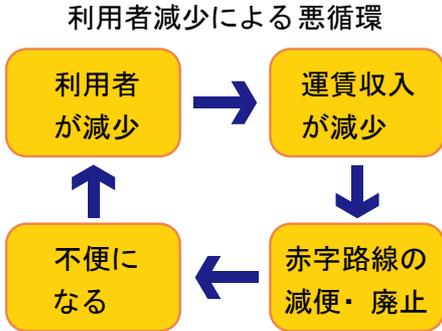
一人一人が考えよう、公共交通の持続に向けて

市内公共交通は 危機的状況

現在青梅市内には、鉄道が「青梅線」、バスが「3事業者（都営バス、西東京バス、西武バス）」・32系統のバス路線が運行されており、公共交通に恵まれた地域であると考えられます。しかしながら近年の路線バス利用者数や青梅線青梅駅以北の利用者数は減少を続け、交通事業者の努力や行政の補助金だけでは立ち行かなくなってきました。

利用者の減少 による悪循環

路線バスの利用者が減ると、バス事業者の運賃収入が減少し、経営の悪化につながります。バス事業者は経営努力をして路線を維持しようとするものの、運行費用を賄うことができなくなると、便数や路線数を縮小せざるを得なくなります。その結果、利便性が低下し、さらに利用者が減少するという悪循環になっています。



利用が低迷 したままだと...

公共交通に関するアンケートでは、「将来車を運転できなくなった時に必要」、「車を運転できない人のために必要」といった声が多く聞かれます。今の自分には関係なくても、このままでは十年後、二十年後いざ公共交通が必要となったときに困るかもしれません。

公共交通の利用 機会を見つけよう

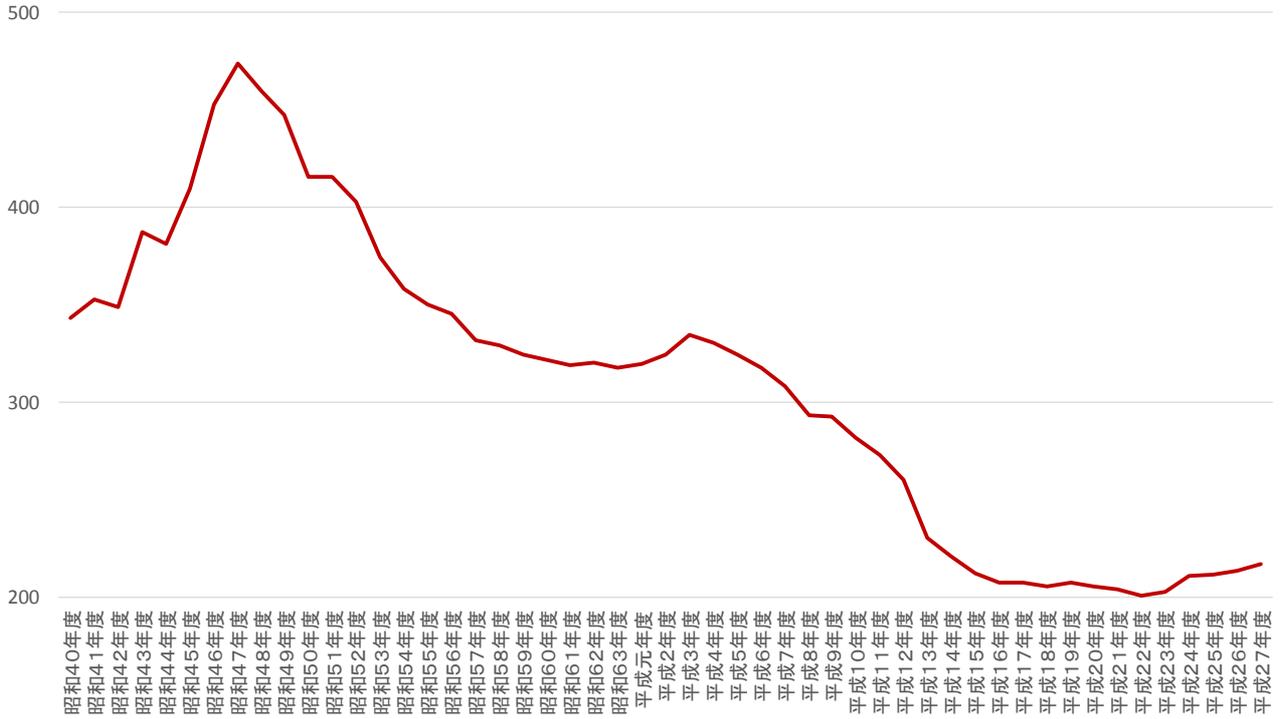
今のうちから一人一人が自分の問題として捉え、行動を変えていく必要があります。

例えば、月に一回通勤や買物に公共交通を利用してみるとか、地域のイベントに公共交通を利用するなど、自分のライフスタイルの中にほんの少し公共交通を取り入れる工夫をしてみてもいいでしょうか。

青梅市にお住まいの方が
年に5回程度バスを利用すれば
公共負担額をまかなえます。

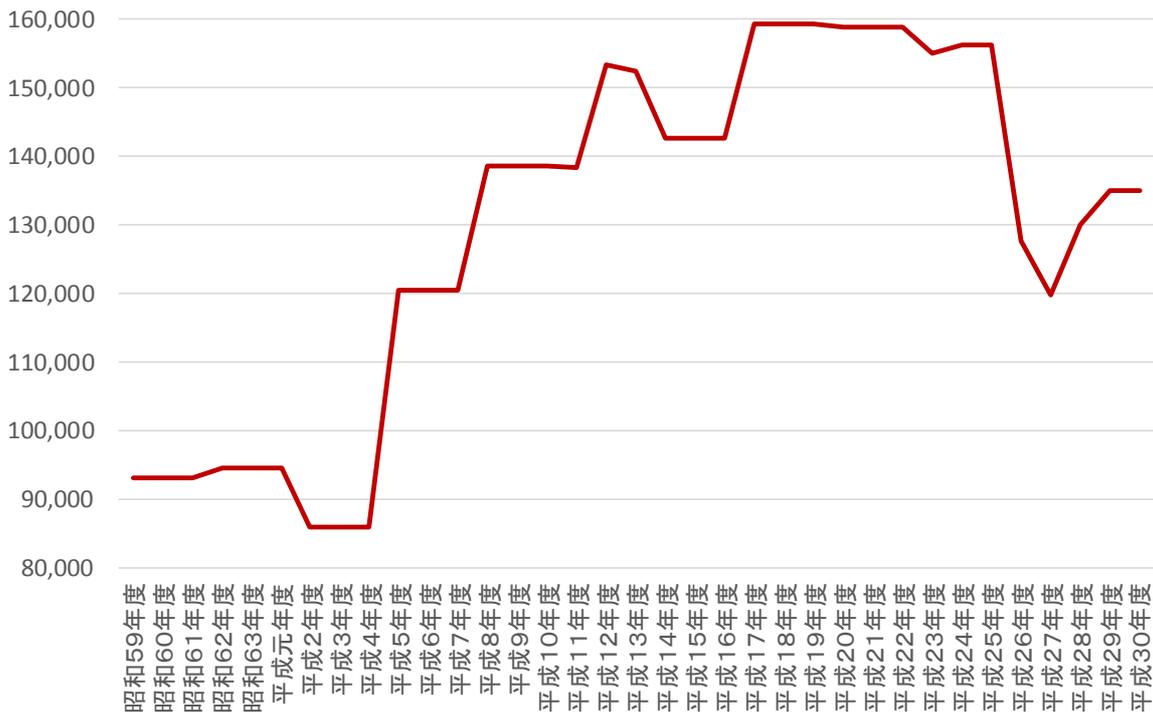
青梅市の15歳以上人口12.1万人、バスの運賃を210円とします。高校生以上が年に5回程度利用すると、公共負担額と同じくらいになります。
12.1万人×210円×5.3回
=約1億3千5百万

都営バス乗車人員（百万人／年）

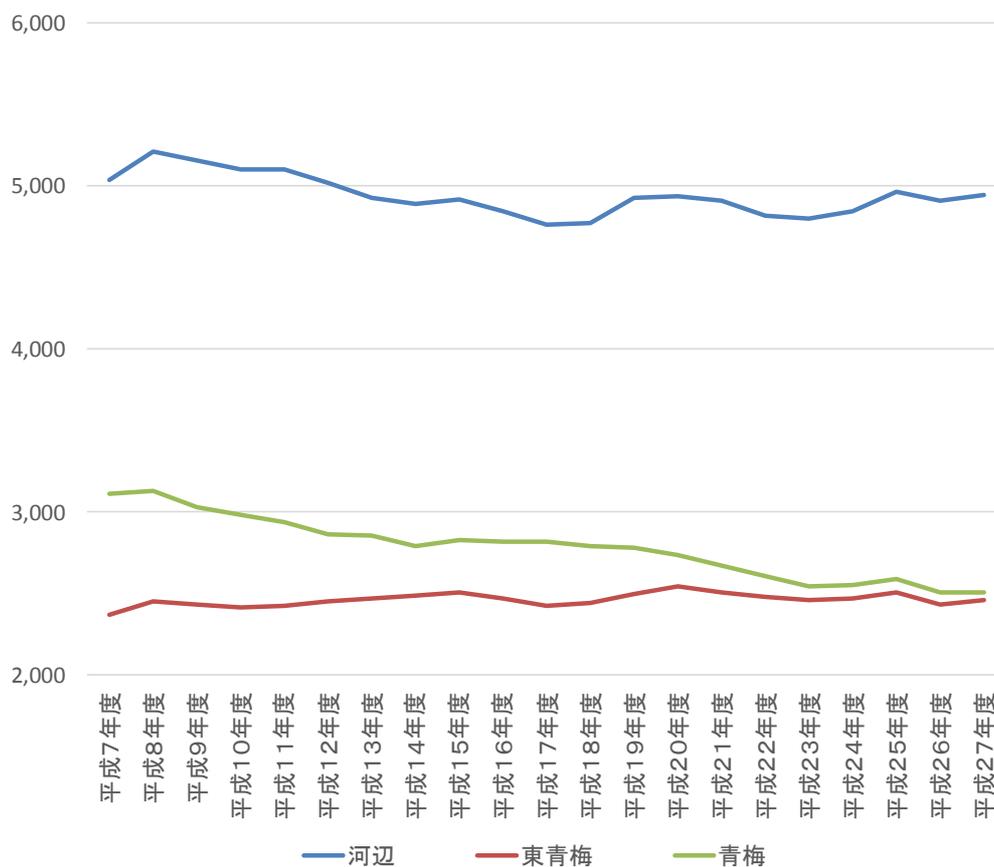


資料：東京都統計年鑑

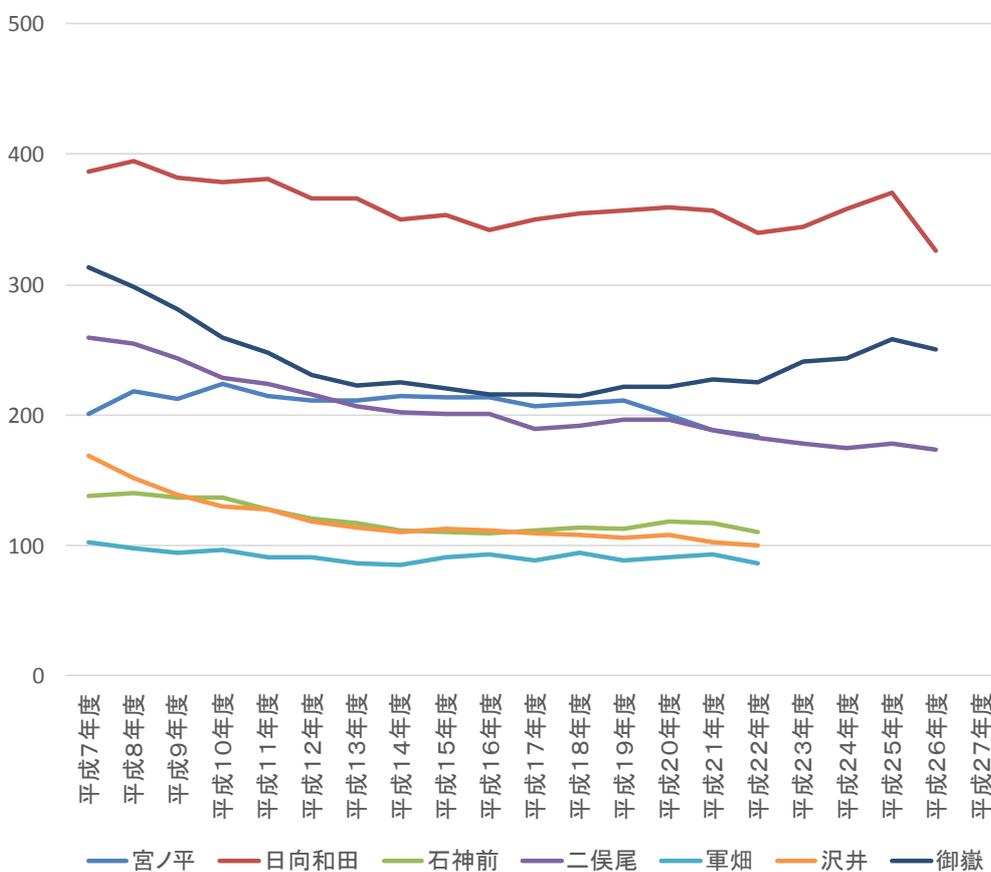
公共負担額(千円／年)



青梅線乗車人員（千人／年）



青梅線乗車人員（千人／年）



資料：東京都統計年鑑

2. 観光におけるMMIについて

(1) 観光における MM のターゲット及び配布場所

- 青梅市内の観光地に対応したチラシを作成し、情報提供する

<観光における MM のターゲット>

- 観光における MM のターゲットは、基本的には青梅市民以外の方とする

<配布場所>

- 作成したチラシは、青梅市観光部局で作成しているチラシとともに、青梅駅の観光案内所や、市の資源を宣伝するイベント等で配布するとともに、中央線の主要駅(立川駅、国分寺駅等)での配布を検討する
- さらに、青梅市民以外の方に再訪していただけるように、チラシの対象地域の飲食店や公共施設での配布も検討する

<青梅市民に対する観光における MM>

- 青梅市民に対して、公共交通ガイド内にチラシの内容の概要を掲載することで、公共交通の利用を促進する

(2) 配布チラシ

- 前回協議会でのご意見を踏まえ、高水山のチラシを修正
- さらに、4月以降配布することを想定しているため、4～6月に開催される塩船観音つつじまつりや吹上花しょうぶまつりへの来訪者をターゲットとして、チラシを作成

<前回協議会におけるチラシへのご意見>

- ハイキングの際の食事やお土産などの情報も載せるべき
- もう少し魅力的に、キャッチコピーのようなもの付けて、わかりやすくしてほしい

(3) チラシ配布における効果の検証

- 青梅駅の観光案内所において、チラシの配布枚数を確認し(実際には、残枚数を確認)、どの程度の人たちにチラシが行きわたったかをモニタリングする

高水山

バスにのって青梅登山に入門!

たかみずさん

高水山ハイキングコース案内マップ

常福院
高水山の山頂にある寺院です。不動堂には浪切白不動像が祀られています。山門は楓の木が茂り、紅葉シーズンはおすすめです。

常福院 表参道から登るコース

上成木バス停
上成木バス停から登山スタート!
東青梅駅北口からバス 39分

成木の家
トイレ・休憩施設の利用可
※冬期休業

表参道から登ると傾斜がゆるくてラクだわ!

軍畑駅から登ると傾斜がきついなあ。時間もかかるぞ。

ゴールは軍畑駅 帰りは電車で!

軍畑駅 谷商店
軍畑駅から青梅駅まで 12分
立川駅まで 47分

岩茸石山 (793m)
高水山 (759m)
物岳山 (756m)

常福院
高源寺
高源寺まで 徒歩 70分
軍畑駅まで 徒歩 30分

勾配ゆるめ
山頂まで徒歩 90分
勾配きつめ

水場

上成木停留所
軍畑駅
東青梅駅
青梅市 全体図

高水山への交通のご案内



行きの交通

JR東青梅駅から 都バス 梅 76 甲 上成木 行をご利用ください。



東青梅駅北口バス停の時刻表

平日	土曜	休日
07:40	07:49	07:26
10:53	10:39	10:30
17:49	17:59	17:44
19:49	19:44	19:44

東青梅駅北口バス停から乗車

上成木バス停（終点）で下車

上成木バス停から山道へ



バス



徒歩



帰りの交通

お帰りはJR軍畑駅から鉄道をご利用ください。

軍畑駅 時刻表（10～18時まで掲載）

〔平日〕

時	奥多摩行き （下り）	時	青梅行き （上り）
10	26	10	39
11	11 55	11	24
12	40	12	09 54
13	25	13	39
14	11 55	14	24
15	40	15	07 52
16	19 49	16	32
17	22 53	17	18 48

〔土曜・休日〕

時	奥多摩行き （下り）	時	青梅行き （上り）
10	26 59	10	21 54
11	29 59	11	24 54
12	31	12	24 56
13	01 32	13	26 57
14	02 37	14	31 57
15	02 34	15	29
16	00 45	16	11 26 57
17	02 31	17	42



○時刻表は平成30年3月現在のものです。
ダイヤ改正等で変更になる場合がありますので、
ご利用の際は、運行会社等へご確認ください。

青梅市経済スポーツ部まちづくり政策課 0428-22-1111

霞丘陵ハイキング 交通のご案内

おすすめの順路



行き 吹上しょうぶ公園・塩船観音寺までの交通



- 河辺駅→吹上しょうぶ公園へ
乗車：河辺駅北口バス停①
都営バス 梅 77 甲
下車：吹上しょうぶ公園入口

【河辺駅北口 時刻表】

吹上しょうぶ公園・塩船観音寺へ

塩船観音寺へ

- 河辺駅→塩船観音寺へ
乗車：河辺駅北口バス停①
都営バス 梅 77 甲
下車：塩船観音寺入口
または
乗車：河辺駅北口バス停②
西東京バス 河 11
下車：観音寺入口

のりば①

梅 77 甲 裏宿町（青梅駅・塩船循環）行

時	平日	土曜	休日
06	23 32 45	36 57	37 58
07	02 15 26 50	18 40	22 46
08	12 38	03 35 58	02 29 44
09	08 16 29 46 59	57	11 41
10	26 48	05 19 25 29 55	00 20 49
11	11	30 43	10 35
12	07	06 30 40	05 28 40 55
13	04 30 58	06 25 31 50	03 28 35 58
14	13 33 37	15 38	23
15	04 27 39 57	02 20 45	00 15 30 56
16	19 41	20 35	25
17	13 49	04 31	03 26 37 49
18	13 41	03 26 46	02 32 35
19	02 33	01 17 29 54	00 29 52
20	03 26 50	15 36 58	15 43 58
21	11 30	20	20

のりば②

河 11 小作駅東口行

時	平日	土休日
06	08 19 38 54	27
07	06 19 38 50	01 38
08	19	04 43
09	07 43	07 39
10	26	08 38
11	01 39	11
12	26	06
13	01 39	11
14	26	13
15	00 35	13
16	06 32	13 55
17	07 48	42
18	28 54	14 54
19	16 44	19 45
20	00 26 50	10
21	12 45	14
22	10 55	18

【河辺駅北口バスのりば】



無印：河辺駅北口行（塩船循環）※午前のみ外回り
オ：青梅駅前
シ：青梅車庫
ウ：裏宿町

帰り JR東青梅駅/西武飯能駅までの交通



- 岩蔵温泉→JR東青梅駅へ
乗車：岩蔵温泉バス停（A）
都営バス 梅 74 甲乙
または
西武バス 飯 41
下車：東青梅駅北口
または
乗車：岩蔵温泉バス停（B）
都営バス 梅 74 甲乙
下車：東青梅駅北口

【岩蔵温泉 時刻表】

JR 東青梅駅へ

西武飯能駅へ

のりばA

梅 74 甲乙 裏宿町行

時	平日	土曜	休日
06	03 14 55	14 47	14 53
07	14 42	25	28
08	43 河	48 河	48 河
09	51 河	41 河	47 河
10			38
11	52 河	03 河	38 河
12	37 55 河	07 河	30
13	57 河	39 河	40 河
14			
15	03 河	46 河	30 河
16	42 河	38	38

のりばA

飯 41 東青梅駅行

時	平日	土休日
07	06 28	04
08		01
09	04	39
10	59	
11		11
12		12 39
13		59
14	09	
15	39	21
16	29	
17	59	39
18	32 河	

のりばB

梅 74 甲乙 裏宿町行

時	平日	土曜	休日
07	47	48	
08			
09			
10	44		
11			
12			
13		58 河	28 河
14	10		
15	46 河		
16			09 河
17	36	03 河	29
18		13 河 47 河	59
19	06 河	29 河	31 河
20	26 河	26 河	29 河
21	36	36	36

のりばB

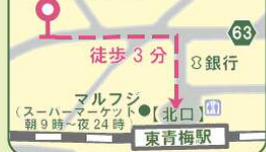
飯 41 飯能駅南口行

時	平日	土休日
07	55	49
08	22	41
09		
10	06	20
11	41	57
12		
13	19	
14	56	40
15		
16	21	05
17	25	
18	41	26
19	35	

【岩蔵温泉バスのりば】



【東青梅駅北口バスおりば】



オ：青梅駅前
シ：青梅車庫
河：河辺駅北口



時刻表は平成 30 年 3 月現在のものです。
ダイヤ改正等に変更になる場合がありますので、ご利用の際は、運行会社等へご確認ください。

青梅市経済スポーツ部まちづくり政策課
0428-22-1111

3. 学校 MM について

(1) 市教育委員会へのヒアリング

- 再来年度以降、学校教育 MM を実施することを想定し、教育委員会に学校 MM を実施するためのスケジュール感、プログラム、調整方法等について、ヒアリングを実施した

<ヒアリング結果>

- 学校教育における MM の実施の可否
 - ⇒実施する事は問題ない
 - ⇒教育委員会としては、各学校の授業プログラムの作成には関与していない
- MM を実施する際の調整方法(いつまでに、どこで、何を調整する必要があるか)
 - ⇒翌年の事業プログラムは秋には決めている
 - ⇒そのため、それまでに企画書を各学校宛に送付することが必要になる
 - ⇒そのうえで、もし実施したい小学校があれば、その小学校と調整することになる
- 現在実施している学校教育 MM(もし実施していれば)
 - ⇒特に実施していないが、数年前に CO₂ 削減のプログラムを都内小学校で実施していた

(2) 今後の検討方針

- 再来年度の実施を想定し、各小学校への配布する企画書を作成し、教育委員会を通じて各小学校宛に送付
- もし実施したいという学校があれば、実施にむけてツール、プログラムなど、具体的実施方針を作成

<想定する施策メニュー>

① 乗り方教室

- 小学生(主に2年生)を対象に、路線バスを用いた乗車体験を踏まえながら、乗り降りの仕方やマナー、公共交通としての路線バスの大切さ等について学習してもらう
- 学習を通して、路線バスに興味や親しみを持ってもらい、路線バスに乗車する機会の増加や、将来も移動手段の一つとして自然に選択できるような意識の醸成をはかり、路線バスの持続的な利用促進につなげる



出典：西東京バス HP

写真 乗り方教室

②出前講座

- バスの乗り方や特徴などを、クイズ形式で実施し、楽しみながら学習する
- 出前講座を通じて、公共交通に関する関心を促し、お出かけの際に、積極的に公共交通を利用してもらう取組

平成28年度 豊田小学校 はまっ子ふれあいスクール 出前講座 実施報告 『みんなで楽しむバスクイズ～もっと知りたい「バス」のこと～』

1 はまっ子ふれあいスクールでの出前講座

- 夏休み期間、横浜市立豊田小学校の「はまっ子ふれあいスクール」において、バスに関する出前講座を開催しました。
- 夏休み期間かつ「はまっ子ふれあいスクール」でのモビリティマネジメント出前講座は、横浜市として初の試みです。
- 出前講座は、バスに関する関心を促し、お出かけの際は、家族とともに、積極的にバスに乗ってもらうことをねらいとしています。

2 「みんなで楽しむバスクイズ」について

- 対象が小学1年生から5年生と幅広いことなどから、「クイズ」形式を採用し、バスの乗り方や特徴などを、楽しみながら学んでもらいました。
- 1年生から5年生まで、全ての年齢層が楽しめるように、体育館を使い、クイズの正解だと思う方に体ごと移動して回答してもらったり、クイズの合間に自由に質問を受け付けたり、工夫をしています。



3 授業を実施して

- 夏休み期間における「はまっ子ふれあいスクール」での実施は、学習と異なる時間の中で、楽しみながらモビリティマネジメントを学んでもらうきっかけとなりました。
- また、「はまっ子ふれあいスクール」での実施は、通常授業に比べ、比較的時間の確保がしやすく、子どもへのモビリティマネジメントを展開する「場」の一つとして有効に活用できると考えます。
- 子どもたちは、クイズの解答に一喜一憂し、正解・不正解に関わらず、今まで興味の無かったこと、知らなかったことを知る機会になったと考えます。

■はまっ子ふれあいスクール 出前講座について

【日時】 平成28年7月26日(火)
10:00～12:00

【対象】 豊田小学校
はまっ子ふれあいスクール参加者
(小学校1～5年生混合 47人)

【内容】 みんなで楽しむバスクイズ
「もっと知りたいバスのこと」



■用いた教材(パワーポイント資料)

もっとしてほしい「バス」のこと

クイズ4 みんなのまちのバス

クイズ8 クルマいすでのれる?

クイズ8 クルマいすにのったままのれるバスはあると思う?

1 おはし 2 ない 3 ある

■クイズの内容(実際は「ひらがな」表記)

- ①外国には、バスを3つも繋げた乗り物がある?
- ②江ノ電バスは、「前」と「後ろ」、どっちのドアから乗る?
- ③江ノ電バスは「前」から乗るけど、「後ろ」から乗るバスもある?
- ④豊田小のある「栄区」のバス停の数は、80個よりも多い?
- ⑤「豊田小学校前」バス停から行ける駅は、「戸塚」と「大船」の2つだけ?
- ⑥「豊田小学校前」から「戸塚駅」に行く10時頃のバスは、「何分ごと」にくる?
- ⑦江ノ電バスは、夏休みの間、子どもは安く乗れます。さて、何円で乗れる?
- ⑧クルマいすに乗ったまま、乗れる「バス」はあると思う?
- ⑨クルマいすに乗ったまま、乗れる「タクシー」はあると思う?
- ⑩電車を使う人の数は、10年前に比べて増えている?
- ⑪バスを使う人の数は、電車と同じく、10年前に比べて増えている?

出典：横浜市 HP

写真 出前講座概要(横浜市)

4. 公共交通ガイドの更新について

(1) 公共交通ガイドの更新の方針

- 平成 30 年 3 月に公共交通ガイドを更新するが、更新内容は以下の通り
- 公共交通ガイドとともに、バスの利用を促すために、啓発チラシを同封し、配布する

<公共交通ガイドの更新箇所>

① 公共交通ガイドの表紙イラスト

- 毎年、表紙イラストは別のものを作成し、掲載しているため、今年度も新たに作成

② 公共交通ガイド表紙下スペースの内容

- 昨年度までは、バス利用を喚起する情報を掲載していたが、今年度は、公共交通ガイドと一緒に啓発チラシも配布することから、別の内容を検討する必要がある
- そのため、市内の資源(観光地、病院、商業施設)へ公共交通を利用して訪問してもらうための情報(ここへはこの系統のバスを利用すると行けます、といった内容)を掲載
- 今年度は、市内の観光地を対象として、観光における MM で作成したチラシ(高水山)の簡易版を、公共交通ガイドに掲載する

③ バス路線図の更新

- 市民斎場線を削除
- 東青梅駅～河辺駅南口系統の追加

④ 時刻表の更新(廃止路線、時間変更等)

- 市民斎場線の時刻表を削除

⑤ 啓発チラシ …別紙



(2)啓発チラシについて

- 啓発チラシは、路線バスを取り巻く現状及び今後の方向性、公共交通に関する問題と課題、公共交通を利用するメリット(マイカーからバス利用への転換を促す)について掲載する

<前回協議会におけるチラシへのご意見>

- ▶アクションにつながるような構成があると良い
- ▶高齢化率をもう少しわかりやすくする
- ▶公共交通を使うことのメリットが先にあると良い

青梅の公共交通について

いっしょに考えてみませんか？

青梅市経済スポーツ部まちづくり政策課

公共交通の良い点について考えてみましょう

公共交通の良い点「環境」

ちょっとクルマを使うだけで排出されるCO₂(地球温暖化ガス)はバスの2倍以上 鉄道の7倍以上にもなってしまいます。

1人1km運ぶのに排出するCO₂

クルマ	145
バス	66
鉄道	20
自転車	0
徒歩	0

(g CO₂/人キロ)

出典：国土交通省「運輸部門における二酸化炭素排出量」

公共交通の良い点「健康」

1時間クルマで移動するかわりに 鉄道・バス・徒歩を使うと消費カロリーは1.5倍以上になります。

移動にともなう消費カロリー
(体重65kgの男性の場合)

クルマ (60分運転)	112
鉄道・バス (鉄道/バス40分 1分歩20分)	172

(kcal/時間)

注) 日常生活動作によるエネルギー消費量は、日本体育協会スポーツ科学委員会に基づいて算定

公共交通の良い点「安全」

「そんなことは滅多にないだろう・・・」と思われるかもしれませんが冷静に考えてみましょう。

- 3分の2のドライバーが「事故でケガをさせて」しまう!
- 100人のドライバーのうち1人は死亡事故を起こす!
- 300人のドライバーのうち1人は事故死する!
- 250人のドライバーのうち1人は「人をひき殺して」しまう!

①人身事故：年間約100万件(全国)
 ②自動車を利用する人口：約5千万人(全国)
 ③人身事故を占める割合：年2% (1-1-2)
 ④50年で64% (1-1-1-(1+2)1%)
 ⑤交通事故で亡くなる人数：年間約1万人(全国)
 ⑥死亡事故を占める割合：年0.02% (4-1-2)
 ⑦50年で1% (1-1-1-(4+2)1.5%)
 ⑧交通事故死のうち約1/3がドライバー
 ⑨交通事故死のうち約4割が歩行者・自転車

出典：国立公衆衛生院および社団法人日本損害保険協会

これからの公共交通の継続のために少し工夫してみましょう

例えば.....

- 週に一度はバス・電車で通勤・通学する。
- 買い物にバス・電車を利用する。
- レジャーの目的地をバス・電車で行けるところにする。

この機会にあなたもバスや電車で出かけてみませんか？

【公共交通利用の例】 ※青梅市内から八王子駅へ買い物に行く場合

①ご自宅から
徒歩またはバスで最寄りの駅へ

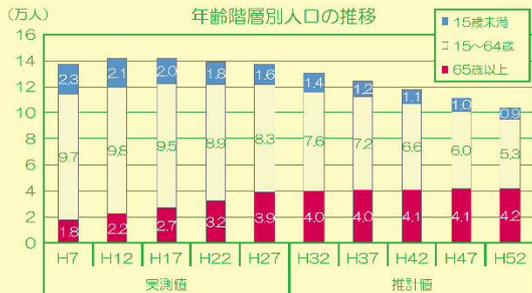
②JR青梅線に乗車

③JR拜島駅でJR八高線に乗換

④八王子駅から
徒歩またはバスで目的地へ

河辺駅→八王子駅の所要時間(日曜13時出発した場合)・・・ 鉄道：約35分 車：約45分

青梅市の現状



青梅市の人口は、少子高齢化が進み、減少することが見込まれます！

少子高齢化が進み、人口が減少すると、バス電車で通勤通学する人も減ってしまいます。

出典：実測値一徳務省統計局【国勢調査（各該当年）】
推計値一国立社会保障・人口問題研究所
【日本の市町村別将来推計人口（平成25年12月推計）】

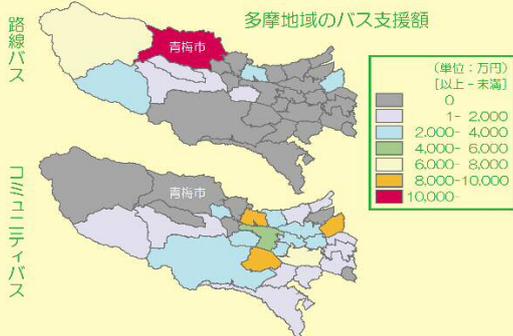


青梅市の自動車の利用割合は高い水準にあります！

自動車と公共交通のバランスの良い利用が求められます。



出典：平成10年・平成20年 東京都市圏パーソントリップ調査



出典：多摩地域におけるコミュニティバスおよび路線バス支援策に関する実態調査報告書 (公益財団法人 東京市町村自治調査会)

路線バスに年間1億5千万円の公共負担をしています！ (多摩地域で最も高いレベル)

路線バスへの公共負担はすでに限界にきています。



公共交通は利用者数に応じたサービスを提供します。
公共交通の利用者が減少すれば、サービスも縮小して不便に...

公共交通がなくなると困る人が大勢います！

ほとんどの方が公共交通は必要と答えています。



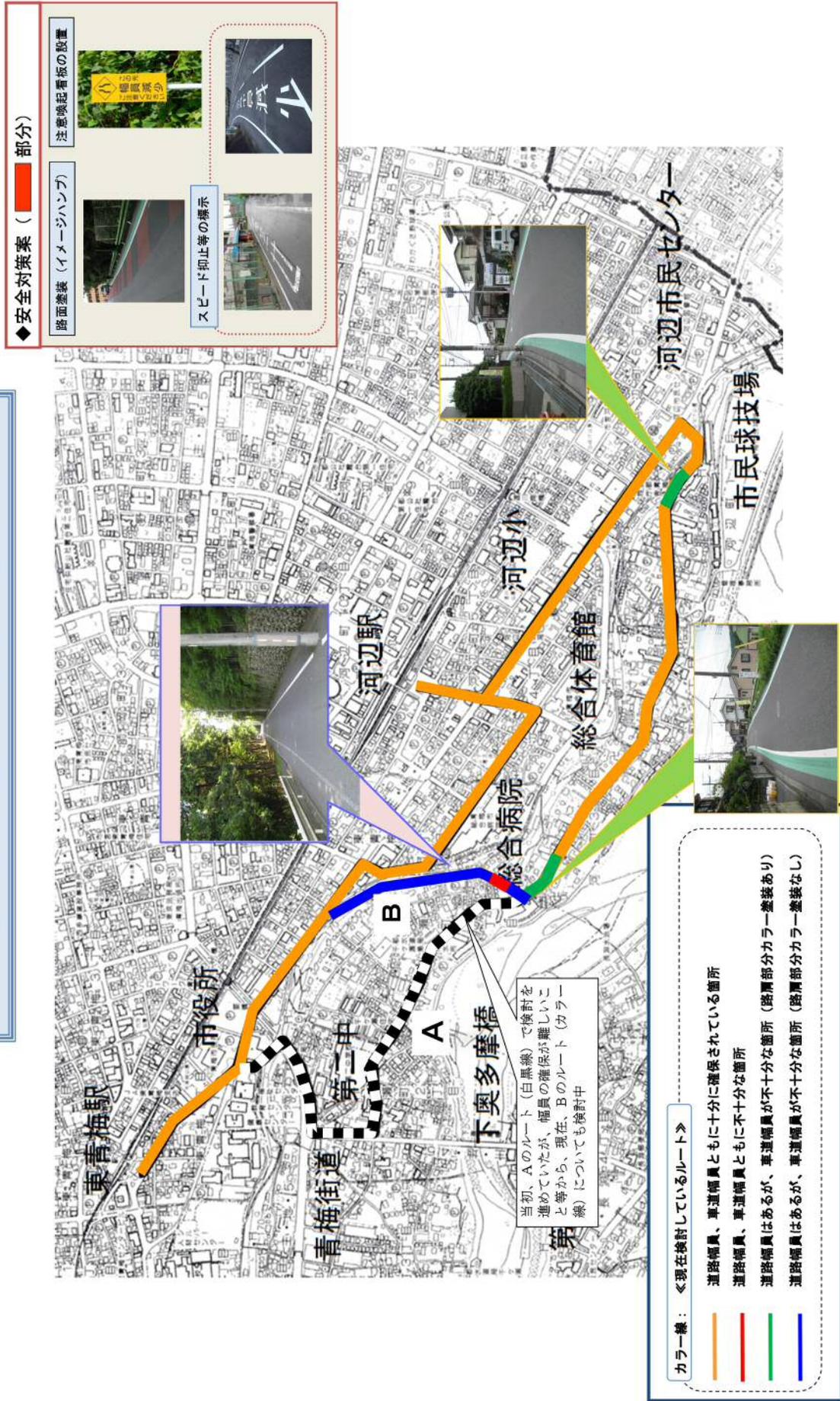
- 家族の日常生活には、なくてはならない交通手段である
- 普段は利用していないが、たまに必要なきにないと困る
- 現在は必要ないが、将来クルマを運転できなくなったときにないと困る
- 自分の世帯には直接必要ないが、駅から遠い人やクルマのない人には必要である
- あまり必要性を感じない

出典：青梅市公共交通基本計画



5. 河辺下地区について

河辺下新路線運行予定経路（全体図）



京王自動車へのヒアリング結果

平成 30 年 2 月 6 日、青梅市役所

- 京王自動車多摩西では、町田市や八王子市で乗合タクシーの運行を検討している。駅と駅から離れた団地を結ぶ路線形態である。1運行で 1,500 円程度の運行経費となり、利用者は一人 200～300 円負担で、残りは市が負担している。
- 乗合タクシーの運行には乗客6名乗りの車両を予定し、経費は、1運行当たり基本料金(730 円)＋対距離料金(90 円/278m)＋迎車料金(410 円)で計算している。河辺下から河辺駅を回って総合病院まで行くと、距離から計算すると1運行当たり 1,410 円程度となる。
- 河辺下に乗合タクシーを検討するのであれば協力していきたいが、今までの雨天時のタクシー呼出し状況などからみると、どれほど需要があるかはわからない。あるとすれば、駅から近いので通勤通学より病院や買物の高齢者ではないか。
- デマンド型の予約運行の場合は限定車両を使用するので、事業者としては定時定路線で運行が決まっている方がやりやすい。(乗客6名乗りは現在1台)
- 会社の乗合タクシーの免許は、八王子市の方で取得する予定なので、青梅市での運行にも適用が可能である。
- 利用者の運賃だけで成り立つには、1人 300 円くらいにして5人乗らないといけないので、ハードルは高い。

6. その他

小曾木地区における公共交通に関するワークショップへの参加

(平成 30 年 1 月 23 日、小曾木市民センター)

- 平成 29 年度青梅市市民提案協働事業「おそきの未来の青写真を創る事業」において、公共交通(バス等)の現状と各地での取組みについてのワークショップが開かれ、市職員及びコンサルタントで参加し、公共交通の現状と、他の地域での生活交通の状況について、報告し、住民の皆様と意見交換を実施

青梅市の公共交通(バス等)の現状と各地での取組みについてのワークショップ おそきの学校と地域を考える会	
<p>今年度の青梅市と「おそきの学校と地域を考える会」の協働事業の一環で、交通の不便さへの対応策の検討を行う場としてのワークショップを 1 月 23 日(火)に小曾木市民センターにて実施しました。青梅市から、まちづくり推進課と㈱ライテックに参加いただき、青梅市公共交通基本計画、全国各地での取組み例、小曾木地区への提言を受け、意見交換を行った結果を報告します。</p>	<p>意見交換より(当日の意見交換の一部を掲載)</p> <ul style="list-style-type: none">バスを小型のコミュニティバスに変えて経費を抑えて本数を増やす方法はどうか⇒バス運行の 8 割は人件費。小型に変えても大差が出ない。空白路線として、黒沢地区の柳川から青梅坂を通った青梅駅方面、小曾木地区の岩蔵から立正佼成会を通して小作駅方面はどうか⇒新規路線はバス会社が採算が見合うかなどで決めている。バス時刻で西武バスと都バスが近すぎる時間帯がある。路線が多く通る柳川バス停などでは顕著。黒沢地区での自治会ではバス会社との話し合いも実施している。今後もっと調整が必要。「バスを残して欲しい」という意志を地域共有するには、「各家庭からお金を出してもらう」ような刺激的な取組みも必要ではないか。まちづくり推進課としての目標をはっきり示して市民生活の向上を推進して欲しい。自治会や高齢者クラブ行事などは、バス時刻を意識して時間を決めて、路線バスを活用することも大切。
<p>青梅市の現状について</p> <p>まず、概略として、市内のバス路線の一部には現在約 1 億 3 千万円の公共負担が実施され、多摩地域では最も高いレベルであり、小曾木地区を通る都バス「梅 74」の路線には約 2900 万円の支援が実施されています。市民はバス路線の必要性は感じているが、公共負担がされていると認識できているのは半数程度のみとの調査結果が出ています。今後の市としての方針は、バス利用促進への市民意識の改革、公共交通空白地域の改善、公共負担抑制や効果的な活用、現状からみた既存路線の見直しなどとなっています。</p>	<p>ワークショップを終えて</p> <p>バス路線の現状を広く地域のみなさんにお知らせし、採算が合っこそそのバス路線でもあり、すでに多額の公共負担をバス路線に行っている危機意識を持っていただく必要性を感じました。住民と行政とバス事業者が情報交換する場を設けて、事情を知り、気持ちを通じ合わせるにより、バス路線を守る意識も生まれ、少し面倒でも気持ちを切り替えてバスに乗車してみる行動につながるのではないかと感じました。</p>
<p>全国各地の取組み</p> <p>全国各地では、バス路線がなくなってしまった場所では自治会や地域団体がボランティアで 10 名乗り程度の車を運行している例はいくつもあるようです。ただし、営業運行はできないため、自治会費などによる運営での無料運行となっています。既存路線がある場所でそのような運行を行うと既存路線の乗客が減少し、路線廃止につながってしまう問題があります。</p>	

出典：おそきだより 23 号

図 ワークショップ結果